

「マイコプラズマ肺炎」流行の兆し



マイコプラズマ肺炎は年間を通じてみられる呼吸器感染症です。子どもの肺炎の原因としては、比較的多いもののひとつです。臼杵市では11月に入ってから患者が増加傾向にあり、市内の小中学校では学級閉鎖もありました。マイコプラズマ肺炎は潜伏期間が2~3週間と長いため、長期間にわたり患者が絶えません。今回はそのマイコプラズマ肺炎についてお話しします。

Q1. どんな病気ですか？

「マイコプラズマ」という菌は、のどや気管支に感染します。感染した場合、風邪症状や気管支炎で済むことも多いですが、一部は肺炎となり重症化することがあります。潜伏期間は2~3週と長く、患者の咳のしぶき(飛沫)を吸い込んだり、身近に接触することで感染しますので、学校・園・家庭内で流行します。15歳以下の子どもの感染が多く報告されています。

Q2. 症状は？

熱、しつこくて乾いた咳、体のだるさ、のどの痛み、頭痛などの症状があります。熱は一日の中で変動が大きく、午前中下がって夜間にまた上がるのが特徴的です。咳は熱が下がった後も2~4週間続くこともあります。多くの人はマイコプラズマに感染しても気管支炎ですみ、軽い症状が続きますが、熱・咳が長引くときは肺炎の可能性があるので検査が必要です。

Q3. 検査・診断は？

マイコプラズマの感染は、以前は血液でしか検査できませんでした。最近はのどから菌がいるかどうか調べることができます。当院では昨年導入した検査キットは感度が高く、少量の菌でも増幅して検出できるようになりました。15分くらいで結果がわかります。

肺炎になっているかはレントゲン検査で確認します。特徴として、影は白くすりガラス状の陰影が現れます。

Q4. 感染予防は？

手洗いや手指消毒、うがいなどが基本的な予防になります。マイコプラズマに感染している人は相手にうつさないようにマスク着用、咳エチケットを心がけましょう。

Q5. 治療は？

抗生物質による内服治療が主体となります。近年マイコプラズマ肺炎に通常使用される抗菌薬の効かない耐性菌が増えているとされていますが、耐性菌に感染した場合は他の抗菌薬を使用します。肺炎をきたしているときはさらに点滴で抗生剤を使用することがあります。重症化した場合は入院して治療が行われます。

Q6. 通園・通学は？

- 普通、園や学校のお休みは1週間程度です。熱が下がり、咳が落ち着いてくるのが登園・登校の目安となります。
- 園や学校は出席停止となります。

Q7. 最近の流行状況を教えてください

以前は4年に1回の周期で流行していましたが、1990年以降は大きな流行がみられていませんでした。ところが2011~12年、2015~16年に流行があり、以前と同様4年周期の流行に戻りつつあります。このため今年から来年(2019~2020)にかけてはマイコプラズマ肺炎の流行が予想されています。

大分県の小児発生状況

